

その他（自由選択科目）：海外教育実践体験実習

担当教員：隅田学，河野極，鴛原進，菅谷成子（法文学部），竹下浩子，大橋淳史，熊谷隆至，池野修，藤田昌子，荻田知則，河村泰之，富田英司，ボグダン・デイビッド，深田昭三，向平和，吉村直道，高橋志野（国際連携推進機構），ルース・バージン（国際連携推進機構）

フィリピン海外教育実践体験実習（アドバンスコース）

理科教育講座・隅田学

授業の目的

昨年度より、フィリピン大学（学術交流協定締結校）と連携協力しながら、これまで行ってきた、英語を教授言語として授業を計画・準備し、現地渡航して授業実践を行い、教育分野における国際的な感覚を培うことを目的とした海外教育実習プログラムを、授業観察中心のステップコースと授業実践中心のアドバンスコースに分けて拡充、系統化した。今回は後者のアドバンスコースについて報告する。

受講者数と行程

本授業は、フィリピンでの教育実践体験への参加を受講の条件としている。受講者数（渡航者数）は12名であった。2018年1月22日～28日の7日間、現地渡航し、各種学校訪問と授業観察、そして文化視察を行った。その行程は以下の通りである。今回は、法文学部の菅谷と教育学部の河村の教員2名が引率し、学部生1名が引率補助として参加した。

1月21日 移動日

22日 公立・私立学校訪問・授業観察
フィリピン大学ディリマン校長表敬
ウェルカムパーティ

23日 フィリピン大学附属学校での行事参加、授業観察・事前指導

24日 フィリピン大学附属学校での授業実践・事後指導

授業実践を行った学年と内容

小学校3年社会科「マニラ首都圏の人口問題」

小学校4年理科「引張と圧縮」

小学校6年算数「整数の足し算」

※各教科グループが3回の授業（担当学年全クラスで授業実践を実施）

サンクスパーティ

25日 文化視察（イントラムロス，マニラ国立博物館等）

26日 移動日

本授業を通じた成果と地域を核とした教育と研究のつながり

自分が身につけたさまざまな能力についての評定を、説明会、渡航直前、渡航後の3回評定を求め、整理した。評定については、1（全くできない）～5（十分にできる）の5段階評定で回答を求めた。

（1）国際的な授業力

主に国際的な授業力に関わると思われる項目「フィリピンの子どもたちに相応しい教材をつくることができる」「フィリピンの子どもたちによくわかるように説明することができる」に対する参加学生の回答は、それぞれ説明会の2.25と2.25から渡航直前が2.91と2.64、渡航直後が3.50と3.30と愛媛大学での学び、フィリピンでの学びの2段階で大きく伸びていた。

（2）異文化を考査する力

主に異文化を交差する力に関わると思われる項目「フィリピンの文化や習慣を日本の子どもたちに説明できる」「日本を世界的な視野に位置づけて考えることができる」に対する生徒の回答は、それぞれ説明会の2.17と3.08から渡航直前が2.27と2.73、渡航直後が2.75と3.58となり、愛媛大学での学びを通して僅かに伸び、フィリピンでの学びを通してその伸びが加速されていた。

（3）国際的な活動力

主に国際的な活動力に関わると思われる項目「世界の様々な人々と交流することができる」「世界の様々な国で、自分を役立てることができる」に対する生徒の回答は、それぞれ説明会の3.50と2.83から渡航直前が3.27と2.55、渡航直後が4.00と3.33となり、これらの項目については、フィリピン渡航をして現地で学ぶことを通じてこそ伸びるものであった。

参加学生より、フィリピンへ渡航し、学ぶことによって、日本や愛媛に関する理解が深まったとの感想があった。